

ジーンズやチノパンなどのカジュアルパンツには、ブランドロゴなどの入った天然皮革のパッチが付けられているものが多くあります。今回は、天然皮革のパッチからの色泣きを紹介いたします。

素材特性に注意

監修／クリーニング総合研究所

### 衣類の状態

腰の部分に付けられたブランドロゴの入った皮革のパッチから染料が溶け出し、パッチの周囲や裏側生地などを汚染（色泣き）している。

リーニングを禁止し、手洗いによる水洗いを可としているが、染色状態をチェックした結果では、水および石油系溶剤のいずれにしても染色が不堅ろうで、染料が溶け出すことが確認でき

### 原因

表示に従い、手洗いによる水洗処理を行ったところ、天然皮革の染色が不堅ろうであったため、染料が溶け出して周辺の生地を汚染したものの、  
取扱い表示では、ドライク

### 事故の防止対策

製品の製造メーカーは、染色の不堅ろうな天然皮革の使用を避けること。  
クリーニングにおける対応として、染色した天然皮革を組み合わせた製品については、水



デニムパンツの表側(写真上)と内側(写真左)。茶色の天然皮革から染料が溶け出し、パッチ周辺や裏側生地を汚染している

洗い、ドライクリーニングのいずれにおいても染料が溶け出すことを前提に、使用する洗剤や溶剤に対する染色堅ろう度をチェックする。堅ろう性に問題がある場合には利用者による旨を伝え、処理を断るなど適正に対応すること。

②

天然皮革製品は、風合いを重視するために高温染色が実用化されていない。クロムめしなどにより高温に耐える天然皮革もあるが、こうした天然皮革であっても高温での染色は風合いを悪化させることになる

③

繊維製品のように染色後に余分な染料を洗い落とす工程（ソーピング）を十分に行えないことがある

### 天然皮革の染色

天然皮革の染色が堅ろう性に欠け、クリーニングで色泣きなどの問題が生じるのは、染色工程に次のような要因があるため。

①

衣類などに使用する天然皮革には、天然皮革の内部まで均一に染色する必要があることから拡散性の高い染料が用いられる。しかし、拡散性の高い染料は天然皮革との親和性が低いために、十分な堅ろう度を確保できな

このほかにも、天然皮革製品は、個体や裁断する部位の異なる天然皮革を集めて一着の縫製品とするため、クリーニング前には目立たない品質の違いなどが、クリーニングすることで色や風合いの変化となって現れてくることもある。

特にスエード素材にはこうした変化が顕著に現れやすいため、利用者に対しては十分に理解を求めることが必要。



腰部分に皮革のロゴパッチが付いた白色のデニムパンツ

■品名…ズボン  
■素材…100% COTTON  
■取扱い表示…  
■処理方法…手洗い

※今回の事例の製品は、平成28年12月1日より前に販売されたものとなる。海外製品を輸入し日本で販売するためにJISの取扱い表示が付けられている。ISOには「タンブル乾燥（禁止）」の表示があるが以前のJISには該当する表示がなかったため、ISOの「タンブル乾燥（禁止）」の表示がそのまま残ったものと思われる